

## 硬質コムギ「タマイズミR」を安定多収とする止葉抽出始期以降の施肥法

利用対象：伊賀地域のコムギ生産農家および指導機関

○伊賀地域においてコムギ縞萎縮病に抵抗性を持つ「タマイズミR」の一般栽培が平成 31 年度から開始されます。そこで、本地域の主な作付け圃場条件となるやや低湿な水田輪換畑において、安定多収とするための施肥方法を明らかにしました。

### (特徴)

- ①穂肥 2 (止葉抽出始期、3 月中下旬頃)：生育に応じて施肥します (下囲み)
- ②実肥 (開花期、4 月下旬)：窒素成分で 3~6kg/10a 施用します。ただし、タンパク質含量を毎年安定して 10%以上とするためには窒素成分で 6kg/a 以上施用します。また、主に粒重の増加により窒素成分 1kg/10a につき 16kg/10a 程度の増収効果が得られ、倒伏への影響はほとんどありません。

### 止葉抽出始期の生育量と追肥窒素量

生育量 (草丈×m <sup>2</sup> 茎数× 葉色値/10000)	追肥窒素量 (kg/10a)
110(小)	6
160(適正)※	3
210(大)	0

※(適正な生育量の目安)  
草丈:42~50cm  
茎数:800~900本/m<sup>2</sup>  
葉色値(SPAD):40~42

目標とする実収 400kg/10a



止葉抽出始期の適正な生育

### (利用場面と留意点)

- 周囲溝や明渠の設置、畝立播種といった排水対策を必ず実施します。
- 11 月上旬播種、分施肥体系での試験結果です。肥効調節型肥料の基肥施用体系においては実肥施用方法について別途検討が必要です。
- 止葉抽出始期までは基準どおりに施肥します。
- 実際の施肥設計にあたっては地力窒素の発現や土壌中に残存する無機体窒素量を考慮する必要があります。

お問い合わせ先	伊賀農業研究室 中央農業改良普及センター	中山幸則 芳尾知也	電話 0595-37-0211 電話 0598-42-6323
参考になる資料	小麦「タマイズミR」栽培マニュアル： <a href="http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000763446.pdf">http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000763446.pdf</a> <a href="http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a>		